発行：国立大学法人岡山大学

岡山大学 J-PEAKS MONTHLY DIGEST

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」（実施主体：日本学術振興会）に関連する社会変革の取組を月刊でお知らせ

VOL. 31
2026.10

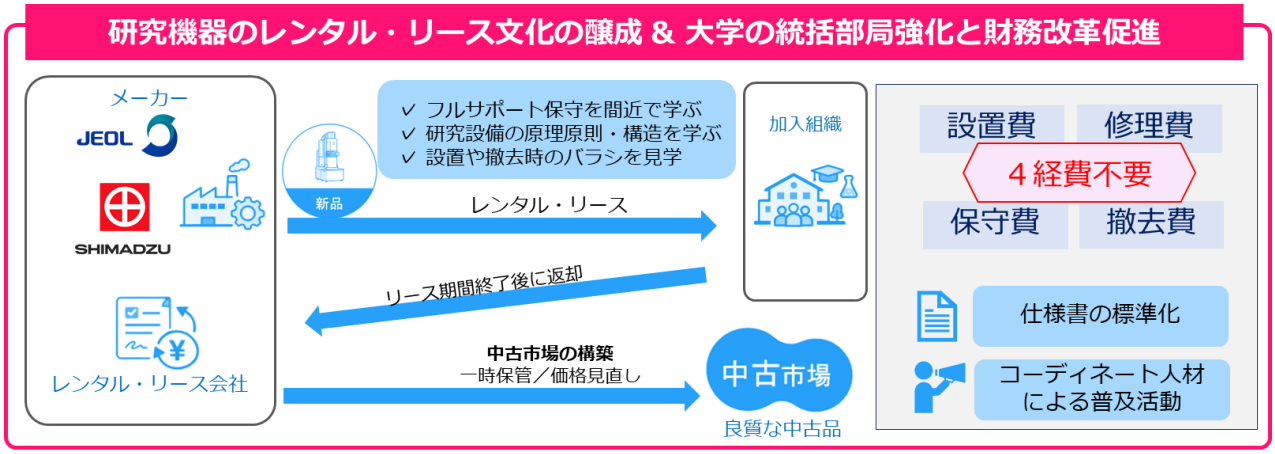
TOPICS 1

「人的資本による知と技の共創」で切り拓く、我が国の先端研究基盤の刷新！

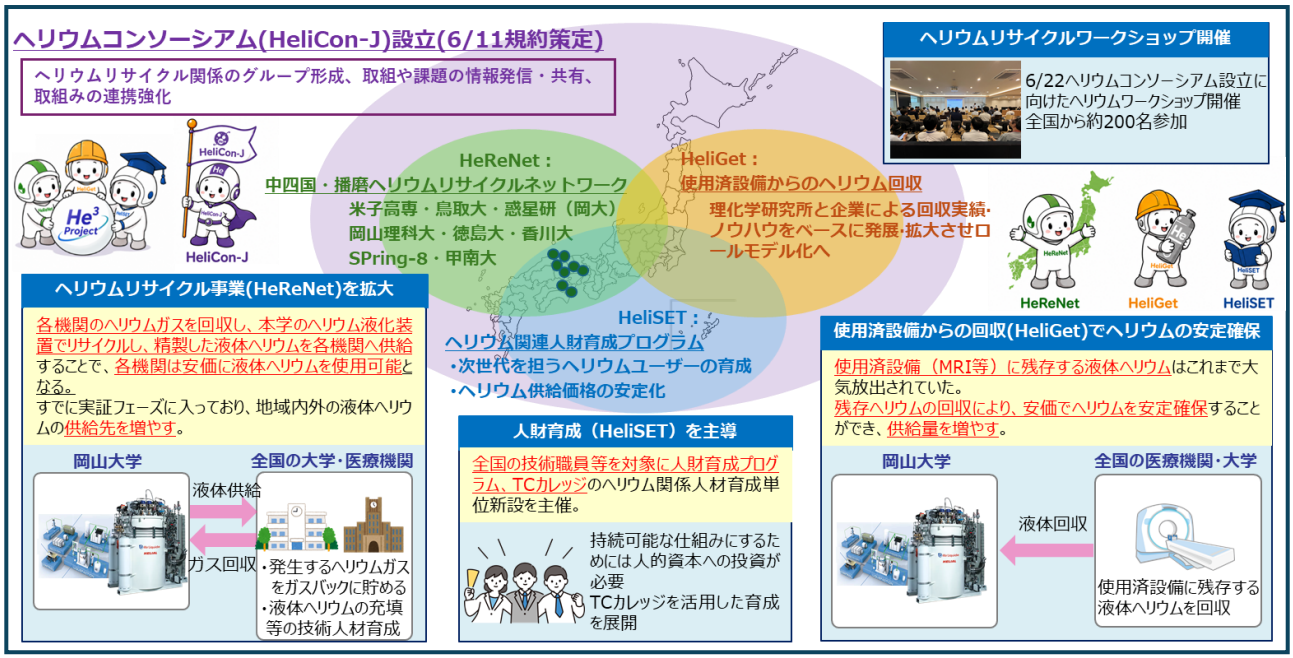
岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業で進めている技術人材の高度化や共用機器群の強化等を「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」を活用して戦略的に進めます。今回は、文部科学省・JSTより採択されたEPOCHプロジェクトの概要と、岡山大学が担う役割、挑戦についてご紹介します。



文部科学省・JST「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」は、我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するための10年間（2026年度～2036年度）の大型事業です。佐藤法仁副理事・副学長・技術副総監・上級URAがプロジェクト統括を担い、本学の強みである「考古学・地球科学」と「ヘルスケア」を軸とした2つの共用拠点（コアファシリティ）を整備・強化します。微量元素イメージング × 年代分析共用拠点では、考古学や地球科学の強みを活かし、我が国の文化・地球史解明における試料分析の国内完結を実現します。また、全国に散在する機器やノウハウを本学に集約し、利便性の向上と機器の高度化も図ります。セラノスティクス（Theranostics）共用拠点では、がんや難治性疾患の分子レベルでの可視化と治療を一体化した「セラノスティクス」分野において、我が国初の共用拠点となります。新規医療開発の中核として、診断と治療の融合を推進します。さらに、これら共用拠点を支える技術職員やURAなどの「人的資本」の養成・専門化・高度化を強化し、経済安全保障にも寄与するヘリウムリサイクルシステムの強化や、画期的なレンタル・リースプラットフォーム「SXプラットフォーム」の導入等により、国内外から優秀な人材を集める環境を整備します。



SXプラットフォームは「所有」から「活用」への転換。4経費不要のレンタル・リースで財政負担を軽減。機器流通や人材育成も推進し、全学の財務改革も促進します。さらに企業・研究者・技術職員をつなぐ共創の場を形成し、我が国の研究機器リース文化を定着させます。



液体ヘリウム高騰対策として、岡山大学を中核に全国規模の回収・液化・供給ネットワーク（HeReNet）を構築し、安定供給とコスト削減を実現します。また、TCカレッジを活用した人材育成（HeliSET）や、大学・医療・企業等が連携するコンソーシアム（HeliCon-J）設立により、情報共有と課題解決を図ります。これにより、我が国の経済安全保障等の強化に大きく貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15603.html

○那須保友学長のコメント

「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」の申請時、教育研究評議会では「採否に関わらず実施する」という経営判断を下しました。「採択後に実施」では遅すぎます。必要な経費は経営層の責務であり、今回は自己経費を億単位で投入します。これは我が国の研究基盤刷新におけるラストチャンスです。J-PEAKSを担う研究大学として、この波に乗らない理由はありません。

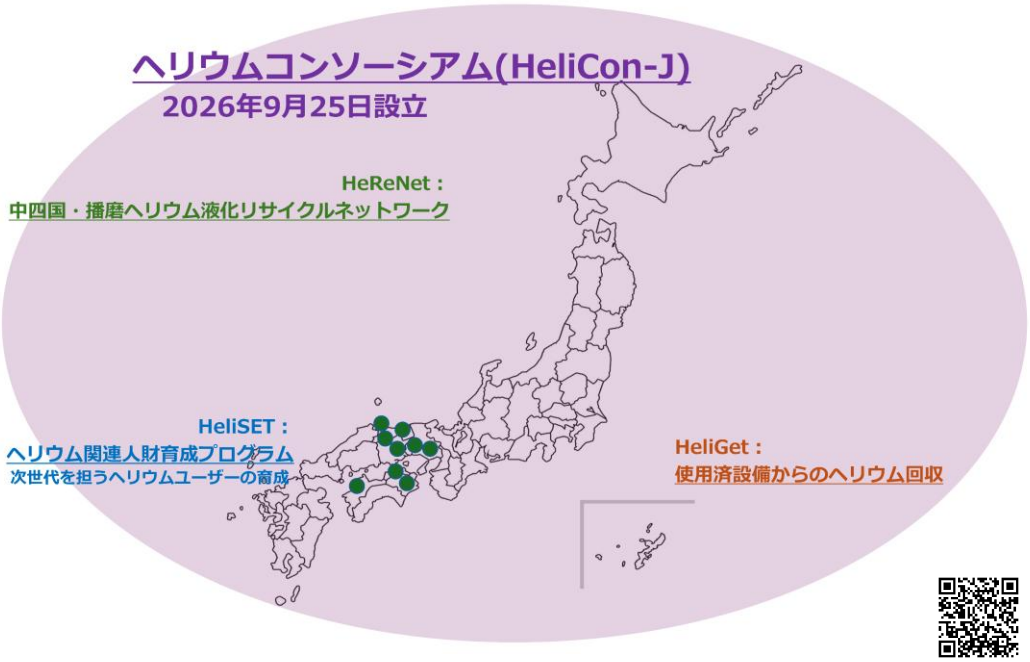
今後は全国での連携調整が進みます。採択大学の枠（限定合理性）を超えて、真に我が国を支える研究基盤の刷新を目指し、責務を果たします。ぜひ本学のみならずEPOCH採択大学群の取り組み、挑戦にご期待ください。



【お問い合わせ先】岡山大学研究力・イノベーション創出強化実現会議　メール：innovation@adm.okayama-u.ac.jp

TOPICS 2 岡山大学など9機関が「ヘリウムコンソーシアム（HeliCon-J）」を設立～オールジャパンで資源循環と人材育成を強化推進～

ヘリウムコンソーシアム（HeliCon-J）が、本学をはじめとする国立大学法人等9機関により設立されました。本コンソーシアムは、全量を輸入に頼る希少資源であるヘリウムについて、リサイクルをオールジャパンで推進する全国的なネットワークであり、グループ形成や取り組み・課題の発信と共有、連携強化を目的としています。本取り組みは、研究力向上・イノベーション創出強化を目指すJ-PEAKS事業の推進と、わが国の研究基盤強化や経済安全保障等への貢献につながるものです。ヘリウムコンソーシアム（HeliCon-J）参画機関の取り組みにご期待ください。





参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15729.html

TOPICS 3 技術職員の専門性の技術高度化～有機元素分析装置UNICUBE（Elementar社製）の取扱説明研修を実施～



本学総合技術部は、Elementar社製の有機元素分析装置「UNICUBE」の取扱説明研修を実施しました。研修では、機器分析・動植物資源技術課および教育支援技術課の技術職員が、測定準備から保守管理、トラブルシューティングまでの最新知識や操作技術を学びました。本学はJ-PEAKSやEPOCH（先端研究基盤刷新事業）等を活用しながら研究基盤の強化を進めており、その重要な取り組みとして、技術職員の高度化を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15681.html

TOPICS 4 J-PEAKS連携ロボラボ見学会を開催

J-PEAKS連携ロボラボの見学会を開催し、各回約20人が参加しました。ロボラボは、本学と信州大学が連携し、ロボット技術を活用した実験の自動化を進めるために設置した研究ラボです。見学会では、ロボットアームや3Dプリンターなどを用いた実験自動化の取り組みを紹介し、計量、分注、滴定実験などを実演しました。また、AIを活用した実験装置の設計や画像認識、実験結果の分析について説明しました。今後は研究分野を越えた連携を進め、実験自動化の知見を学内で共有し、J-PEAKSが目指す研究力向上と研究基盤の強化につなげます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15726.html

TOPICS 5 J-PEAKS特別セミナー第5回「New Horizons in Advanced Materials Science」を開催





J-PEAKS特別セミナー第5回「New Horizons in Advanced Materials Science」を開催し、学内の研究者ら約30人が参加しました。本セミナーは、高等先鋭研究院先鋭研究群「植物・光エネルギー開発拠点」の革新材料・エネルギー研究を強化・推進するとともに、材料関連の研究交流促進を目的として実施されました。今回は「地元出身の材料研究者が語る」をテーマに、岡山県出身の研究者3人が、自身の研究活動や成果について講演し、質疑応答では活発なディスカッションが行われました。今後も先進材料科学分野の研究交流や研究展開を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15757.html

TOPICS 6 クライオ電子顕微鏡による単粒子解析法のハンズオントレーニング講習会第2回（英語版）を開催

クライオ電子顕微鏡による単粒子解析法のハンズオントレーニング講習会第2回（英語版）を、共創イノベーションラボ（KIBINOVE）でハイブリッド形式により開催しました。クライオ電子顕微鏡による単粒子構造解析法を用いた構造解析技術の習得をテーマに、実際のタンパク質データを用いて解析プログラムを操作し実習を行いました。質疑応答を交えた丁寧な解説により、構造解析技術への理解を深めました。本学は関連設備の共用と研究支援を推進しており、今後、最先端の機器を核に構造解析技術の高度化や学内外連携を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15676.html

TOPICS 7 文部科学省・JST「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」のJASISコラボレーションセミナー及びキックオフ会議で本学の取り組みを紹介

本学は、「分析機器・科学機器総合展（JASIS 2026）」で開催された文部科学省・JSTの先端研究基盤刷新事業（EPOCH）セミナーおよびキックオフミーティングに出席し、EPOCH採択大学として本学の取り組みを紹介しました。プロジェクト統括の佐藤法仁副理事・副学長・技術副総監・上級URAが「人的資本による知と技の共創の場が切り拓く、我が国の研究環境・基盤の刷新」と題して発表。全国の設備共用体制の強化や知の構造変化につながる取り組みを説明しました。本学はEPOCHを通して研究基盤の刷新を推進し、J-PEAKSと連動しながら、我が国全体の研究力向上とイノベーション創出強化に貢献します。ぜひEPOCH採択大学群の挑戦にご期待ください。





EPOCH
先端研究基盤刷新事業

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15670.html

TOPICS 8 若手研究者育成・異分野交流を目指す「Brainstorming 2026 in 直島」を開催

Brainstorming 2026 in 直島を、若手研究者の育成や異分野交流を目的として開催し、学生・大学院生、研究者らが参加しました。特別講演やポスター発表、パネルディスカッションを通じて、異分野融合研究の推進、既成概念を超えた研究シーズの発掘と人材育成について活発な議論が行われました。所属分野などの垣根を越えて実りある討論・交流を深めることができ、その成果は今後の研究コラボレーションや共同研究につながると期待されます。





参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15715.html

TOPICS 9 「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」に関するサイトビジットを実施～「知」から新たな価値を生み出すことのできる研究開発マネジメント人材の育成へ～

文部科学省・JSPS「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」サイトビジットを実施し、文部科学省、日本学術振興会（JSPS）、信州大学、大阪大学、PMI日本支部などの関係者が参加しました。本学は、那須保友学長と事業責任者の佐藤法仁副理事・副学長・上級URAら全学体制で対応。研究開発マネジメント人材（URA）の育成に向けた取り組みや、大学法人経営を担うマネジメント人材育成の実績、研究IRや産学連携体制、AIを活用した研究支援の取り組みを紹介しました。今後も「知」から新たな価値を創出できる研究開発マネジメント人材の育成を通じて、我が国の研究力向上に貢献します。ぜひ本学の先進的な取り組みにご期待ください。





参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15665.html

TOPICS 10 「微生物インダストリー共創コア学内説明会」を開催～産業・科学革新人材事業（INSIGHT）を契機に産学の人材循環と研究成果の社会実装を加速～

本学は、「微生物インダストリー共創コア学内説明会」を開催し、研究者、事務職員、学外連携機関の関係者など約60人が参加しました。説明会では、人事・評価制度や産学人材育成プログラム、産学間の人材交流や研究人材マッチングなどについて活発な意見交換が行われました。また、微生物の力を活用した産業化基盤技術の研究開発と社会課題の解決に向けた研究ユニット構想も紹介されました。本学は今後も産業・科学革新人材事業（INSIGHT）をはじめとする各種事業を有機的に連携させ、大学と企業の垣根を超えた、知・人材・資金の好循環を創出し、研究成果の社会実装と新たな産業の創出を加速していきます。ご期待ください。




参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15771.html

TOPICS 11 OU-SPRING・BOOST Summer Research Symposium 2026を開催

本学は鹿田キャンパスにて、「OU-SPRING・BOOST Summer Research Symposium 2026」を開催しました。OU-SPRING認定者が研究成果や研究の意義を他分野の参加者にも分かりやすく紹介するポスター発表の場として実施され、会場では日本語・英語による研究紹介や活発な質疑応答が行われ、異分野の学生同士が研究への理解を深めました。本学は今後も次世代研究者育成と高度な知の融合による研究力・イノベーション創出強化に取り組みます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15759.html

TOPICS 12 本学在学中に起業　岡山大学発ベンチャー・株式会社オーディオストックが東証グロース市場に上場

岡山大学発ベンチャーである株式会社オーディオストックは、東京証券取引所グロース市場へ新規上場しました。同社は、本学卒業生の西尾周一郎氏が在学中に創業した企業で、「クリエイターがもっと活躍できる世界に」をビジョンに、音源ライツビジネスプラットフォーム「Audiostock」を運営しています。本学は学生・教職員による起業や大学発ベンチャーの創出、成長支援を行っています。これにより、今後も研究成果や新たなアイデアの社会実装を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15737.html

TOPICS 13 桃太郎フォーラム2026「次代の大学院博士課程教育」を開催



「次代の大学院博士課程教育」をテーマに、学内外の多角的な知見を持つ登壇者が博士課程教育の現状と課題、今後の展望について議論しました。話題提供やパネルディスカッションでは、博士人材育成における質保証、人材育成支援、キャリア形成、大学院教育改革等について活発な意見交換が行われました。今後も、博士人材のキャリアパスを拡大するとともに、高度専門人材の育成を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15717.html

TOPICS 14 岡山×スウェーデンで考える「地域で人を育てる」未来 ～OLIVEプレキックオフイベントを開催

「おかやま地域未来共創プラットフォーム（OLIVE）」の取組として、Tora Holmberg（トーラ・ホルムベリ）学長を迎え、地域人材育成のあり方について議論しました。OLIVEは産学官金民が連携して、地域を支える人材を育成するためのプラットフォームです。講演やトークセッションでは、活発な意見交換が行われました。本学は今後も国内外のパートナーとの対話と連携を深め、地域全体で人材を育てる仕組みづくりを進めます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15723.html

TOPICS 15 文理融合で“アタリマエ”を科学で問い直す3日間 ～スマホ分解と工場見学で半導体と現代社会を探究～



本学は、全学共通教養科目「“アタリマエ”の科学 ～スマホに映る半導体と社会～」を夏季集中講義として開講しました。講義では、スマートフォンの分解実習と半導体工場見学を通じ、半導体が現代社会の基盤技術であることを学び、身近なスマートフォンを“考える糸口”として科学的・論理的思考を養いました。文理融合による新たな人材育成の可能性を示す有意義な取り組みとなり、J-PEAKSが推進する産学連携による高度専門人材育成や社会課題解決にもつながる取り組みです。今後の取り組みも、ぜひご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15712.html

TOPICS 16 坂本惇司助教、田中健太助教に岡山大学「研究准教授」の称号を付与

本学は、坂本惇司助教と田中健太助教に「研究准教授」の称号を付与しました。坂本研究准教授は、「金属疲労」の克服を目指し、「模擬き裂」を用いた独自手法による非破壊検査手法や構造物の長寿命化技術の開発に取り組んでいます。田中研究准教授は、有機元素のみで構成される新たな光触媒を開発し、医薬品原料の効率的な合成や人工光合成への応用を目指した研究を推進しています。本学は今後も、J-PEAKSを活用し研究力強化と若手研究者育成を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15725.html

TOPICS 17 本学と国立3大学の学生が井原市でのフィールドワークを通して地域の課題を学ぶプログラムに参加

本プログラムは、人口減少に直面する中山間地域の現状や課題を、現場の状況や市民の声に触れながら学ぶフィールドワーク型授業であり、「聞き書き活動」などを通じて、地域の課題だけでなく、地域資源や地域の未来をつくる人々の思いについて理解を深めました。多様な視点から地域の未来を考える機会となり、地域共創を担う人材育成の実践例となりました。本取り組みは、J-PEAKSが推進する地域課題の解決や、次世代の人材育成にもつながる活動です。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15734.html

TOPICS 18 研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業における研修生2人が本学に着任～那須学長から参事の辞令交付とともに意見交換会を実施～

本学では、研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業における研修生2人が着任し、那須学長と意見交換を行いました。意見交換では、大学改革や研究支援、大学経営に関する幅広い視点の重要性が共有され、研修生が大学の一員として主体的に取り組むことへの期待が示されました。今後、研修を通じて大学間の連携を深めながら、J-PEAKSの取り組みとも連動し、「知」から新たな価値を生み出す人材育成を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15745.html

TOPICS 19 文部科学省・JST「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」の中国・四国地域の連携に向けた採択3大学意見交換会を開催



中国、四国地域の連携に向けて、EPOCHに採択された3大学の意見交換会を開催しました。本会議には内閣府や文部科学省の関係者も参加し、各大学からは研究基盤整備や技術職員育成、共用設備の共同利用などの取り組みが紹介され、共通化・共同化・特色化による連携の方向性について活発な意見交換が行われました。本学は、地域と大学の枠を超えた共創により、我が国全体の研究力・国際競争力向上に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15703.html

TOPICS 20 教員の専門性を生かす新たな人事モデル「特定教員制度」の第1号が誕生～新史紀助教に「特定准教授（技術開発）」の称号を付与～



本学は、教員の専門性を生かしつつ大学全体の教育研究パフォーマンスの最大化を図る新たな人事モデル「特定教員制度」を導入し、新史紀助教を研究・イノベーション共創機構附属自然生命科学研究支援センター分析計測・極低温部門の「特定准教授（技術開発）」に任命し、称号を付与しました。今回の称号付与は、「研究大学」への転換に向けた新たなキャリアパス創出の第一号となるものであり、今後も機動的な人材配置を進め、教育の質向上と研究の飛躍的発展を推進します。従来の大学における人事、キャリアパスのあり方を見直し、新しい学問の府を創りあげます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15830.html

イチオシの研究設備 CNC微細加工機（Micro MC-3, PMT社）

高剛性CNC微細加工機「Micro MC-3」は、金属、ガラス、セラミックスなどの材料に、非常に小さく精密な加工ができる工作機械です。0.1mm以下の微細な穴や溝を高い精度で加工できるため、研究開発や試作品の製作に適しています。

本装置の移動範囲はX150×Y150×Z100mm、繰り返し位置決め精度は±0.001mm（1μm）です。また、主軸回転数は5,000～60,000min^{-1}（rpm）と幅広く、加工対象や用途に応じた最適な加工が可能です。その高速回転と高い位置決め精度を活かし、半導体・電子デバイス、医療・バイオ、材料開発、精密機械など、微細加工を必要とする幅広い研究・開発分野での活用が期待されます。



詳細につきましては、下記に記載の研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル（CFPOU）」内本装置ページより閲覧可能です。

本学ではJ-PEAKSの取組として、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

【管理者】
環境生命自然科学学域　神田岳文、総合技術部　堀格郎・藤本幸輝

本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp
参考 https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1447